

# たんちよ

発行日

第 88 号

61年4月号

編集発行

釧路地方腎友会  
釧路市新富町一番七号  
林田クリニック内

家族みんなぞ  
春をみつけに  
出かけよう!



## 山菜

フキトウ・セリ・クレソン・アサネギ・早春の野山へ..... フクジュソウ.....

### ◆◆ 目 次 ◆◆

- P 1 退職を迎えて
- P 2 はがきの無償配付・約法全編
- P 3 闘病体験記
- P 4 市立病院の近況から
- P 5 ハレーはどこに・クロスワードパズル
- P 6 会員の動向
- P 7
- P 8 編集部から会員の皆様へ



# シャント



## 退職を迎えて

釧路会事務局長  
早坂 要

卒業・入学・転勤とあわただしいこの頃、春の訪れも身近かに感ずるようになりました。時の流れは早いもので、……ろろ年間勤めた国鉄を3月1日をもって終止符をうちました。

就職した昭和27年は、まだ食糧難のなごりがある時代で備米が横行し、国鉄が唯一の交通機関として、活躍していた時代でもありました。

昭和35年頃より石油の時代となり、道路の舗装化、自動車の発達、飛行機のジェット化、蒸気機関車からディーゼル機関車へと、一層のスピードを要求される時代へと移って行つたのです。

日本列島改造論により、新幹線の誕生、そして、今は国鉄の分割・民営化へと大きく様変わりしようとしております。皆様の期待に応えられる交通機関として変身する事を願うものです。

退職したとは言え、実感のともなわぬ日々を過ごしておりましたが、日頃、体の弱い娘が気になり、1月中旬、娘のいる四国に向いました。

釧路とは別世界です。庭には、ホーレン草大根、二十日大根が食べ頃。パンジー、椿、水仙等が咲きほこつており、気候の良さを物語っていました。分厚い外套等着る必要がなく、布靴で孫と散歩。晴れた日は汗ばみ、素足になりたい様な陽気でした。

私の通院した病院は、20名程の患者が透析を受けており、ほとんどが60才を過ぎた方々でした。

腎友会はなく、情報交換もない、困つた事や悩み事等、相談する人もいない、活気のない老人ホームのように見え、会が出来ていたら、と会の必要性を強く感じます。

幸い、私には、それらの事を解消する事ができる仲間と会がある事に、心強さを感じました。

釧路会は、北海道の中でもいちばん活発な会であると言われ、釧路市民にもその存在が認められるところであります。

会員一人ひとりが「お互いに助け合う」という目標に向かって努力した、その成果だと思えます。

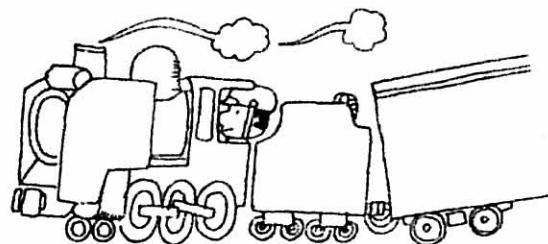
楽しく、愛される会が継続されるよう、各々が英知を出し合い、命の尊さ、生きられる事の幸せを、もう一度、思い起こして見ましよう。

先遣患者の残してくれた、多くの福祉制度に感謝し、これから透析を始める方々のためにも、釧路会の発展に努力して行きたいと思えます。

退職して、考える時間ができたせいでしょうか、または老化したのでしょうか、過去を振り返っている…私…です。

肉体は衰えても気持は青年でありたい……

1986・3・21 記





はがきの無償配付

毎年実施しております、郵政省の身体障害者に対する『はがき』の無償配付、今年も実施されます。せつかくの好意です、有効に利用しましょう。

- 配付枚数 20枚
- 配付開始 4月20日頃より
- 身障手帳と印鑑が必要です。
- 近くの郵便局にて配付を受けて下さい。
- 詳しい事は4月上旬、新聞に載る事と思えます。

速報!

昭和61年度  
 釧路腎会。  
 総会日程  
 決定しました!!

6月 1日(日)

です。

会場は未定……

決り次第連絡します。

会員全員参加を  
 めざして今から  
 スケジュールを  
 調整しよう……



斎藤 昭作 (林田ク)

あれは昭和54年ごろのことでしょうか。坂を登ると息切れがしてどうにもならなくなったので、市立病院へ行って検査を受けてみたところ、血圧が200以上もあり、腎臓が悪くなっていると、言われました。医者に言われて驚いた私は、仕事も休んで3ヶ月ほど通院をしたのでした。この間、なんとなく手足がむくんでいるような気がしていました。そうして通っていた 昭和55年、2月27日のこと、私は突然に意識不明となり 急救車で市立病院に運ばれたのです。その時のことは まったく覚えておりません。気がついた時にはベットの上にはいたのです。場所は集中治療室 (ICU) でした。右腕には いつの間にか外シャントがつけられており、透析も行われていたのです。そうして一ヶ月ほど透析を続けておりました。内シャントもその間につくりました。

この時のことは、何がなんだかよく解らず、夢を見ているような気分でした。

55年4月25日になって、林田クリニックという新しい病院ができたというので、さっそく移り 透析を始めました。林田に移ってから1年くらいは、全く歩くことができずに ストレッチャーに乗って 透析室への往復をしておりました。私の家族、とりわけ母などは 私が死んでしまうのではないかと思っていたそうです。そんな状態だった私も 一年を過ぎたころから だんだん元気になり、自分で身の回りのことができるようになりました。死ぬと思っていた私が元気になったので母や弟たちは またまたびっくりしたようでした。

ところが、元気になったとはいえ、仕事は既にやめていたので、こままってしまいました。また仕事にもどれるほどの体力もなくなっていました。家族の家にも、みな働いているので大変だということで、現在は、林田先生に特別に許可をいただいて入院させてもらっています。ほんとうにありがたいと思っています。土・日には家に帰るようにしています。家族も私の病気にすっかり慣れてしまい、あまり気にしていないようです。これからも体調をくずさないようにしていこうと思っています。



## 市立病院の近況から

U A P D 実施者  
市立病院 木村 俊

先日、定期検査に病院に行つた時に、透析室をのぞいてみた。

私か血液透析から離れてから9カ月になるが、透析室に一步足を踏み入ると、昨日までここに通つた錯覚に陥る。

患者さんも、看護婦さんも前と少しも變つていない。つい懐しさが頭の中をよぎる。みんな明るい。個々の生活の中に入れば、各自色々問題を抱えている人もあろうが、こうして、みんなと枕を並べている限り、平和である。

透析室の中で情報もいくらかあつた。

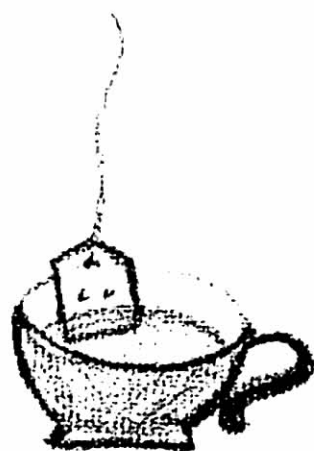
熊勢さんがU A P Dにふみきつた事。

今までのシヤントが使えなくなつたため、場所を変えて作つたのですが、それが、現在発達がおくれているので暫定的な意味あひも含めての事であつたようである。当初は若干のトラブルはあつたものの、入院中はまあまあうまく行つていた様に聞いていた。が退院してからは仲々思う様にいかず、不安、食欲不振、おう吐、等々で、今はすっかり調子をくずしてしまい、透析を今、又やつているとか……。

私も全く同じ体験を持つていますので、彼女の気持は本当によく解る。この時期は、本当につらく、すっかり落ちこんでしまう。

これからどうするか、それは自分で選ばなければならぬ。自分の身体と今後の生活をよく考え、最良の道を選んでほしいものだ。

次に、今村さんのバツトに行つてみた。彼女の口から腎友会の大切さ、患者個人が会に対する自覚の必要さを聞いた時はビックリした。



何でも、透析10年目を迎えた患者の座談会に出席し、当初の暗らい苦しい時代を想い出し、色々考える所があつたのであろう。世話になつた病院の先生達も加えての10年は先生も患者も一致団結で、夢中で過した年月であつたろうと思われる。現在、ソツと振り返つてみる時、よくも今まで頑張つて来られたという思いと、今の医学の進歩振りに、まだまだ今後も生きられるという期待と、寄せては返る波の様に、おもいはめぐつたのだらうと想像される。

何はともあれ、彼女の口から一人ひとりの力は本当に微力なものなのだが、その気持を結集する事により、大きな力となつて世の中を、政治を動かす力があると力説された。

これらの事は、決して他人の為だけの問題ではなく、やがて自分の身に形をかえてかえつてくるのだから、と頑張らなければネ……と言葉は結ばれた。

一時、感情のもつれがあつたとはいえ、会を脱した事のある言葉とはどうしても思えなかつた。こんな話は、私が一人占めしては実にもつたないと思つた。日頃、役員の方々が身をおしんで会のために力を出してくれている事が、こうして少しずつ実を結んでいる証拠ではないだろうか。

2月号のバズル正解（モヨロジジイ）でした。正解者14名（全応募者）中、抽選で次の方々に記念品を差し上げます。

当選者

釧路市立病院の渡辺文子さん、志谷初江さん、今村ツヤ子さん、林田クリニックの山沢道子さん、東山初枝さん、伊達千代子さん、木口八重子さん、荒藤年さん、協立病院の菊地はつえさん、厚岸町立病院の波佐谷純考さん、以上10名の皆さん、おめでとうございます。

今月号の問題を出題します。例によつて該当する言葉で埋めて行くと二重ワクの文字で季節の言葉が出来上ります……………。

正解者10名に記念品贈呈。正解・当選発表は6月号にて。メ切は4月30日。ご応募お待ち致します。

解答宛先……釧路市新富町1番7号・林田クリニック内・釧路会事務局編集部。下記に記入の上、郵送または各病院幹事さん経由で。

……………切り取り線……………

4月号『たんちよう』パズル

答 

--	--	--	--	--

☆道東の春を運んでくる……………?

病院名

氏名



『ハレーはどこに』

上田 弘

70数年にも1度しか見られないというハレー・スィー・セー熱が最高潮となつている。

今回見なければ一生見る事が出来ないという事なので、我家でも子供とハレー観察となつた。

3月23日の朝2時、寝ないでいた子供達が私を起す。少々、腹ごしらえをし、寒くならない様に身仕度をして3人（私、長男、長男の友人）の出発となる。

観察場所は、小高く水平線が見える、白糠『太陽の手』広場とする。車で現地に到着すると、同じ職場の人と子供の3人が来ている。

見える位置関係を、子供は学校の先生、職場の同僚は釧路博物館の学芸員に、それぞれ聞いて来たとか。二人の位置関係は一致する。

方向角…130度 仰角…6度

この方向を、朝の3時頃から『ハレー・スィー・セーはどこに』、といいながら探した。

当日は、肉眼ではこの方向に何も見えないが、漁船の明かりが確認出来るので、見透しは良いようである。

双眼鏡、望遠鏡で観察を続ける。

ハレー・スィー・セーとなると、本体から尾があるというので、尾のある星を探す。

目指す方向に1ヶだけ星が見える。しかしこれには尾がない。尾があつてほしいと頭の中で思うと、何だかある様にも思える。

付近を探してみるが、この星以外に見えるものはない。

朝4時過ぎとなる。6人で1時間以上も尾のある星を探しても見当たらないため、我々6人の中では、現に見えている星を『ハレー・スィー・セー』と決定する事にした。

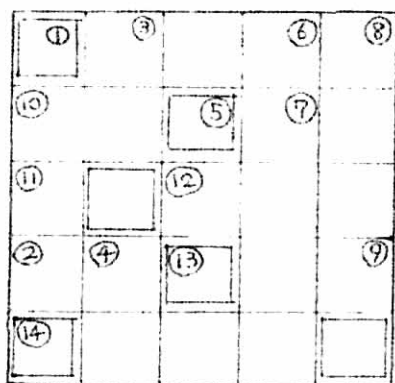
現在見えている星の位置関係を観測して帰宅する事にした。

タテのカギ

- ①「まいつたなあ、ラッシュで足を○( )○で  
しまつたよ」(ああ痛い!!)
- ②潮干狩りは○( )○でします。(大磯・ロングビ  
ーチに行きたいなあ……?)
- ③「サブちゃん」つて名字何んで言つたつ  
け…?『○○○○だろう!!』(演歌の……)
- ④「おつ母さん!!」『英語で○( )!!』
- ⑤「○○○○は恋の花、愛する人に捧ければ  
……」(北海道に咲く、においは悪いぞ)
- ⑥「さかなを○( )」のが漁師さんの仕事。
- ⑦「赤い宝石」○○○です。
- ⑧「ホーホケキヨ」○○○○が鳴いています。
- ⑨「タバコを○( )」

ヨコのカギ

- ①残雪を削つて○○○○○が顔を出しました  
もう春が道東にやつて来ました。
- ⑩「また来てね!!」『うん、○○○○よ!!』
- ⑪「スーパーのお買物、会計は○( )で!!』
- ⑫「ホテルの○○○で待ち合わせ」
- ②「リビングルームつて早い話が○( )の事」
- ⑬「○○○ホステルは若人の旅を助ける所」
- ⑭「釧路の夕焼けは街をオレンジ色に染め  
て、私の体も夕焼けに○○○○○です!!』



◎ 会員の動向 ◎

◎新患者

- ・鈴木三男・釧路市立・昭和34年6月20  
日生・60年4月19日開始・標茶町旭町
- ・夏堀悦郎・釧路市立・大正14年2月21  
日生・60年10月30日開始・釧路市幸  
町
- ・池田敏明・釧路市立・昭和17年11月1  
7日生・60年12月17日開始・釧路市
- ・後藤康則・根室市立・昭和28年11月1  
4日生・60年12月17日開始・根室市  
駒場町
- ・山口エミ子・釧路市立・昭和11年1月2  
日生・60年12月20日開始・釧路市
- ・杵淵幸男・労災病院・昭和2年10月3日  
生・60年12月26日開始・白糠郡白糠  
町
- ・栗井育子・協立病院・昭和8年5月20日  
生・61年1月7日開始・釧路市
- ・柴野ミヨ子・日赤病院・昭和6年2月19  
日生・61年1月9日開始・釧路市
- ・遠藤京子・労災病院・昭和30年2月20  
日生・61年1月10日開始・釧路市
- ・脇田久幸・日赤病院・昭和5年8月1日生  
・61年1月21日開始・釧路市浦見町
- ・外崎芳江・釧路市立・昭和36年6月11  
日生・61年1月22日開始・釧路市新富  
町
- ・島キヨノ・日赤病院・大正5年7月1日  
生・61年1月28日開始・標茶町新富
- ・石田澄子・根室市立・昭和10年12年1  
日生・61年1月28日開始・根室市琴平  
町

•岡本順一

釧路市

•加藤 博

釧路市

•佐藤春男

釧路市

•葛西由春

阿寒町

•菅原ユキエ

釧路市

•山谷 繁

阿寒町

◎おくやみ

- 松田元作・釧路市立・61年2月死亡
- 村松 繁・協立病院・61年5月7日死亡
- 田塚良充・根室市立・60年9月死亡
- 原間井洋子・日赤病院・61年3月9日死  
(釧路市 昭和  
14年10月7日生・61年2月8日開  
始)

◎CAPD導入者

- 木村 俊・釧路市立
- 夏堀悦郎・ "
- 加藤 博・ "
- 能勢セキ・釧路市立・不調に付中止

◎変更者

- 谷内勝美・根室市立から帯広へ  
•60年9月
- 西 弘・根室市立から日赤病院へ  
•60年1月
- 吉田ミツ子・日赤・釧路市駒場町



◎入会者

- 夏堀悦郎・釧路市立・61年2月より
- 清水豊和・釧路市立・61年4月より
- 葛西由春・釧路市立・ "
- 菅原ユキエ・ "・ "
- 佐藤美代・ "・ "
- 木村千恵・ "・ "
- 脇田久幸・日赤病院・ "
- 岡本順一・林田クリ・ "
- 栗井育子・協立病院・ "

◎退会者

- 岩崎幸子・釧路市立・61年3月末にて
- 大竹考治・釧路市立・ "





## 編集部から会員の皆様へ

今月号から新しい年度にスタートしましたのを機会に、創腎会機関紙『たんちよう』について、その発行の意義や役割りを考えてみたいと思います。

私達、創腎会々員は透析患者である事以外には、社会の色々な分野にその生活を展開し又、思想信条、年齢、性別、各々違ったパーソナリティで存在しています。

俗に『10人10色』と言われる様に、一つの事に対して一人ひとり考え方が違うでしょうし、それだから『意見』『論議』が生まれて来るのでしょうか。

私達の創腎会でも、多くの会員の皆さんの『意見』を基に役員を選出し、『論議』を尽くし、組織を運営しております。

この様に運営されている創腎会の動きや、行事の告知、それに大切な事は『創腎会としての考え方』を会員に知らしめる事です。

『透析患者である私達はどうか、どう対処すれば良いのか』、一つの事象が発生する度に役員さんは全腎協・道腎協・過去の経験等と参照し、考え方を試行錯誤の末、結論を出し、会員に周知徹底を計らなければなりません。

『毎月発行』出来ない『たんちよう』の他に事務局会報が折にふれ発行されているのはまさにこの事の為になのです。

『隔月発行』の『たんちよう』にはニュース性の要素は少ないけれど、考えて欲しい事から『シヤント』と言う記事をはじめとして目に触れているはずですよ。

そして、最も大切な機関紙『たんちよう』に課せられている役割りは、『会員の意見や考え方の発表の場としての部分』であり、私達編集部も『何とか会員の投稿を』と会員からの自主性を重んじた編集方向で今まで進めてまいつた次第です。

冒頭で述べましたごとく、透析患者という事以外は、まったくつながりのない私達ですので、強制的に割当て、記事の強要や、フライパシーの立ち入りは、極力、さけて来たりです。

あくまでも会員の皆さんの自主性を尊重した編集方法を心がけてまいりました。

結果は残念ながら原稿皆無の為、事務局公報の二番煎じのうめきに合う様な仕末になるところが続いております。

編集部の試みとして、ある病院で会員に『順番を決めて原稿を書いてもらう』方法をとっておりますが、どの様に発展するか興味の大いに湧く所であります。

あらためて、会員の皆さんに呼びかけます、機関紙『たんちよう』は皆さんの意見や考えの発表の場です。役員さんや編集委員の苦惱の産物をのせるアライバイ機関紙にはしたくありません。

会員の皆さん、ぜひもう一度、あなたの言葉を『たんちよう』におよせ下さい。

『随筆』『闘病体験記』『読書感想』『詩』・川柳・俳句』『テレビ番組批評』『タレント批評』『趣味の紹介』『カット・マンガ』その他、会員の皆さんの情報交換の場としてお使い下さつても結構です。例えば『譲つて下さい、譲りますコーナー』を作つて不用品交換でもやってみますか……？。

会員の皆様が『たんちよう』を生かして下されば、『発行の意義・役割りとは』などと大げさにかまえるものではありません。

創腎会機関紙『たんちよう』、大いにははたかせるのは会員の皆さんの力にかかっております。是非、あなたの言葉であなたの原稿をおよせ下さい。

創腎会機関紙『たんちよう』  
編集部

